

市民ネットワーク 議会通信



松井かよ子 (美浜区) いわさき明子 (若葉区)

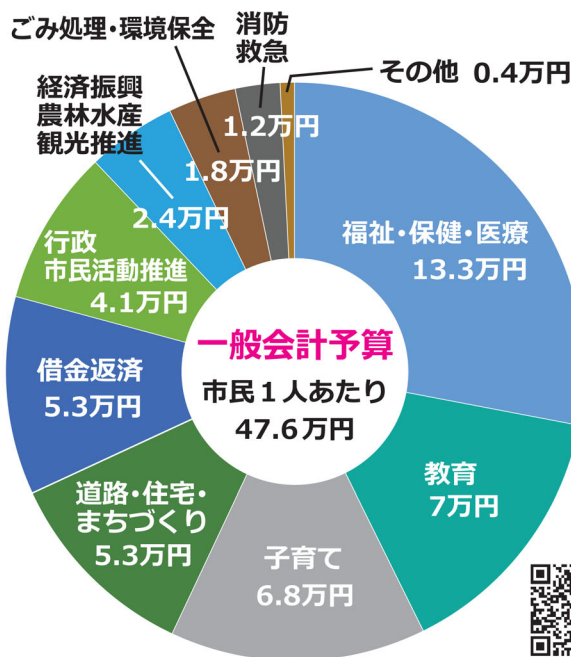
2021年
千葉市議会 第1回定例会
2月10日～3月3日



新市長への期待枠を残し、予算が成立!

今後の感染症対策のための財源を確保できたこと、未来への投資となる事業について現時点で大幅な拡充がおこなわれたことを評価し、2021年度予算に賛成しました。

新年度の予算は、一般会計で4664億円、特別会計で4214億200万円、合計で8878億200万円です。



千葉市HP

評価するおもな新規・拡充事業

- ◆ 町内自治会の集会場を地域避難施設として活用する場合、建設などの助成金に加算
- ◆ 生活困窮家庭の子どもへの学習・生活支援の定員を拡大
- ◆ 多胎妊婦の健康診査費用の助成回数拡充 14回から19回へ
- ◆ 発達障害者支援センターにおけるオンライン相談体制の整備
- ◆ 動物愛護施策推進のためのボランティア支援や懇談会の設置
- ◆ 「ちばし気候危機行動キャンペーン」を実施
- ◆ 千葉県産の木材を活用した木育おもちゃの導入
- ◆ 森林等の安全対策として、「災害に強い森づくり」を拡充
- ◆ 医療的ケアが必要な子どもを対象とした居宅訪問型保育の開始
- ◆ ひとり親家庭の養育費に関する包括的な支援の充実
- ◆ 小学校での専科指導のための教員増
- ◆ ICT支援員やスクールサポートスタッフなどの充実
- ◆ 夜間中学設置に向けた学習ニーズ調査
- ◆ フリースクールとの連携
- ◆ 性暴力・性犯罪を受けた子どもへの対応力を高める研修の開始

討論から

誰ひとり市民を置き去りにしないで!

～きめ細やかな新型コロナウイルス感染症対策を要望～

感染症対策や新市長を後押しする財源を確保

所得減などにより、大幅な税の減収が見込まれる中、今後の感染症対策や新市長の政策を実現するための財源を確保できたことを評価しました。新型コロナウイルス感染症にかかる国からの交付金は、新年度に21億円が活用できる見込みであること、そして、市の貯金である財政調整基金は現時点で77億7500万円となっています。

未来への投資となる重点事業は大幅に拡充

子育て・教育・災害対策など、未来への投資となる事業について、現時点で大幅な拡充がおこなわれたことについて評価しました。支援が必要な子ども・家庭への予算が増えます。

課題は市債の発行額増加

課題としては、工事が増えることで、市の債権の発行(借金)が増えることです。借金残高はこれまで削減が進み、2020

年度末が9899億円であるのに対し、2021年度末には再び1兆円を超える見込みです。例えば、新庁舎整備が70億円、新清掃工場整備が10億円、千葉公園体育館は27億円を予定しています。



新庁舎の整備工事

これまで、市民の理解を得ながら借金の削減を進めてきたことを踏まえ、事業費を安易に増額することがないよう、工事の進捗管理にも十分目配りするよう要望しました。

きめ細やかな対策を!

新年度は、新型コロナウイルス感染症の動向によって、さらなる支出が必要となる可能性が高いと思われます。工夫しながら予算を使い、市民生活の向上に資する事業を充実し、誰ひとりとして市民を置き去りにすることがないよう、きめ細やかな対策を要望しました。(松井かよ子)

予算審査特別委員会で意見を述べました

松井かよ子(総務分科会)

☆災害時要配慮者支援体制を評価

災害時に高齢者を支援する体制をつくるため、ケアマネジャーとコーディネーターが地域と連携して個別の支援計画を作成するモデル事業が始まります。要介護認定の高齢者だけでなく、将来的には障がい者や妊産婦など、支援が必要なすべての人に展開できるよう、今後の拡大を要望しました。

☆災害に強いまちづくりの推進を

避難所や防災組織については、新型コロナウイルス感染症への対応が求められています。分散避難や車中避難、ペット同行避難など、実際の訓練を実施することで課題が見えてきます。停電しても情報伝達ができる、ゴミ集積場への貼り紙など、引き続き災害に強いまちづくりの推進を要望しました。

いわさき明子(教育未来分科会)

☆「社会で子育て」をすすめたい

働き方が多様化したり、育児中に誰にも助けを求められない人が増えている中で、保育や一時預かりの需要が高まっています。ニーズに充分応えられるよう、保育の受け皿を確保することはもちろんですが、保育の質の向上にも取り組むよう求めました。



☆子ども一人ひとりに寄り添える学校へ

来年度、養護教諭等が「子どもへの性犯罪・性暴力初期対応研修」を受講します。性犯罪は子どもの心に消えない傷を残します。学校現場で二度と繰り返さぬよう、さらに万全の体制づくりを強く求めました。

また、コロナ禍で様々な悩みを抱える子どもが増え、SNS(LINE)を活用した相談のニーズが高まっています。相談受付時間の拡大等を行い、ひとりでも多くの子ども心に寄り添うよう要望しました。

校名は

議案より

稲毛国際中等教育学校に

稲毛高等学校が中高一貫校となり、稲毛国際中等教育学校となります。新たな教育体制、改築工事の概要、今後のスケジュールについて、受験生だけでなく、在校生、保護者、同窓生、地域住民にも丁寧な説明を行い、多くの市民が新しい学校を歓迎できるような環境づくりを要望しました。とくに高校受験がなくなることによる様々な課題について、市民の



疑問に答えるよう取り組みを求めました。

市民と議員の意見交換会

日時：5月7日(金)
10時半から12時
場所：千葉市議会1階
応接室にて

★感染症対策のため必ず
マスクをつけてご参加ください。

一般質問

いわさき明子

自然災害が増えている今 農地や森林の役割を見直そう

CO₂などによる地球温暖化で、自然災害の激甚化が世界的な問題になっている中、千葉市は「気候危機行動宣言」を昨年11月に発出しました。新年度は、「ちばし気候危機行動キャンペーン」を実施します。環境を考えた行動をすると「ちばシティポイント」が付与される取組も予定されています。環境のことを考えて行動できる人を増やすため、十分な周知と、ポイントの対象になるメニューの充実を求めました。

■森林や農地の洪水防止機能を見直す

市の「災害に強い森づくり」は、手入れ不全の森林の木を伐採し、倒木による停電を減らす取り組みです。一方、健康な森には雨水を貯留したり地下に浸透させるなど、洪水防止機能があります。昭和の森公園で、市民参加で行われた「1000年の森づくり」のように、健康な森に再生する手法も研究するよう求めました。



1000年の森

■耕作放棄地対策に有機の手法を

耕作放棄地問題は深刻で、農地が本来持つ洪水防止機能が発揮されなかったり、有害鳥獣の生息地になったりしています。農林水産省ではこうした土地をまとめて有機的管理をする農地に転換する自治体へ支援を行っています。千葉市でもこうした取り組みを進めるよう求めました。

■学校給食に有機食材を！

いすみ市ではすべての小中学校で有機米給食を実現しています。これは地元農業者が環境保全を第一に考えて米作りに取り組んだ結果、できた有機米をまずは子どもたちに食べてもらおうと始めた取り組みでした。

千葉市でも、小規模校1校からでも給食に有機食材を取り入れるよう要望したところ、導入可能性について研究すると回答を得ることができました。



いすみ市の小学生収穫体験